

4. 保健指導報告

(1) 歯科指導

6月4日(水)、5日(木)に全児童・生徒を対象に歯科衛生士さん3名と学校歯科医の北川先生により歯科指導を行いました。

① 内容

肢体不自由教育部門

○はみがき指導

- ・ 歯ブラシの上手な当て方や動かし方
- ・ 歯ブラシの交換目安について
(毛先がばらついていないか、口のサイズに合っているものを使用しているか等)
- ・ 歯ブラシ以外の口腔ケアの方法
(口腔ケアジェルやタフトブラシ、口腔スポンジの紹介)

就業技術科1年

○口腔観察とむし歯予防

- ・ むし歯はどうやってできるのか
- ・ 歯の染めだしとブラッシング指導
(自分のみがきにくい部分を発見する、歯ブラシの上手な当て方や動かし方等)
- ・ 歯ブラシ以外の口腔ケアの方法
(デンタルフロスや糸ようじ、タフトブラシの紹介)

就業技術科2年

○歯肉の観察と歯周病予防

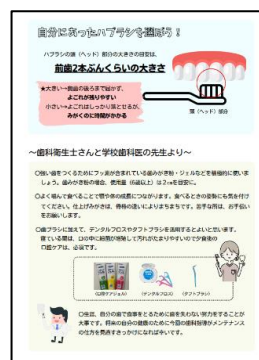
- ・ 健康な歯肉と歯肉炎の特徴
- ・ 自分の歯肉の状態観察
- ・ RDテストの実施
(自分のだ液から口腔内細菌の状態を知る)
- ・ 歯ブラシ以外の口腔ケアの方法
(デンタルフロスや糸ようじ、タフトブラシの紹介)
- ・ 食べたら磨く習慣の大切さ

就業技術科3年

○口腔機能と歯と口の健康づくり

- ・ 噛むことの大切さ
- ・ 咀嚼判定ガムの実施
(噛む力の強さ、噛むと顔のどこが動いているのか確かめる)
- ・ 口腔内の健康状態について
(むし歯、治療歯、歯肉炎の有無等)
- ・ 卒業後の口腔内の健康管理
(かかりつけ歯科医を持つこと等)

② 事後指導



*今年度より歯科指導後にはほけんだよりを発行した。歯ブラシの交換の目安や補助具の使用については家庭でも情報共有が必要なものである。

*学校のみにとどまらず、自宅でも実践できるような事後指導が今後必要となると考える。

(2) 薬物乱用防止教育講演会

6月17日(火)、就業技術科1年生を対象に湘南医療大学薬学部教授の船田先生より「身近に迫る薬物乱用の危険性について」をテーマに講演していただきました。

① 内容

○薬物依存とは？

○乱用薬物の整理

- ・覚せい剤やMDMA、ヘロイン、大麻等は名前を変えて身近に潜んでいる。俗称に騙されない！

○大麻の危険性

- ・大麻事犯は、30歳未満の若年層を中心に増加している
- ・最も多い年齢層は20歳代、次いで20歳未満と青少年の検挙者数が増加しており危機的状況
- ・「大麻グミ」について

○薬物乱用から身を守る

- ・薬物に手を出さないためには、使うきっかけを知ること
→年齢が若いほど、恋人や友人に誘われて使用する割合が高い
- ・薬物に誘われたときには、「私は薬をやらない」と自分を主語にしてはっきり意志を伝える、その場から離れること
- ・薬物乱用から身を守るために
→「生きる力」を高める、ライフスキルの向上



② 講演を受けた生徒の感想例

1. 今日の授業で学んだこと

○覚せい剤や大麻を使うことで依存してしまう。身近なものに大麻を使ったお菓子がある。誘われたとしても断ること。しつこかったら、その場から逃げる。

○一度怪しい薬をのんでしまったら、一生の闘いになる。体にも負担がかかることもわかった。 等

2. 今後の生活に活かすこと

○仲の良い人でも誘われるかもしれない。そんな時は、「断る」ということに自信を持ちたいと思いました。

○家ではこれからは薬の使い方をしっかり確認し注意して使っていこうと思った。

○誘われても怪しいものは断ろうと思った。 等

*本校では例年、就技1年生を対象に薬物乱用について学習している。近年、薬物が様々な形態や名前となって出回っているため、1度開いて終わりではなく、次にどのようにつないでいくかが重要。

*全児童・生徒は、学校のみでなく、大きな社会の中で生活している。今後の取り組みとして、保護者や学校外へ向けての事後報告等、地域全体で予防という視点で計画していく必要がある。

*服薬している児童・生徒が多いからこそ、薬物に限らず、医薬品の過剰使用(OD)についても日常的指導が重要である。